

急性期細菌感染症における漢方製剤の免疫応答と感染制御に対する効果の検討 (北里生命科学研究所 和漢薬物学研究室との共同研究)

麻酔学教室 出野智史

研究目的

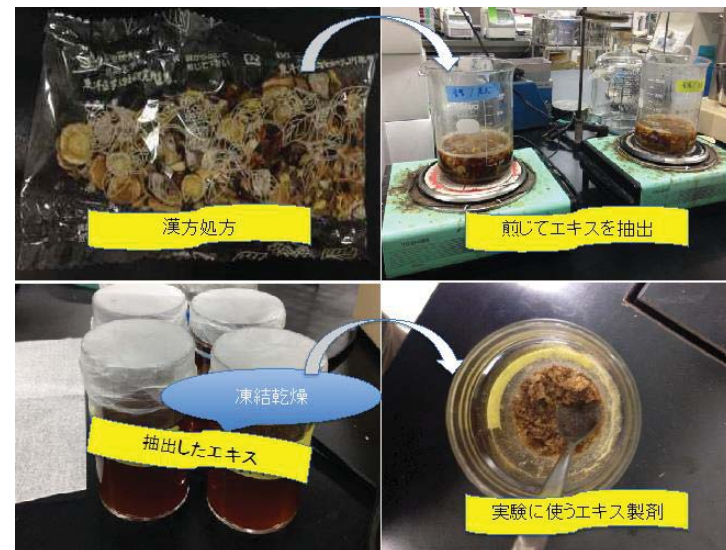
集中治療医学ならびに関連領域の著しい進歩により急性期重症患者の救命率は飛躍的に改善しましたが、敗血症のような重症細菌感染症の死亡率は30%前後といまだ高い状況です。30年以上にわたり病態解明と共に、様々な治療法あるいは新たな医薬品の開発が試みられてきましたが、残念ながら決定的な治療法は未だありません。治療成績を向上するには既存の治療法に加え、これまでの常識から生まれない突破口となるような斬新な治療法が必要と考え、私たちは東洋医学に注目しました。本研究では宿主の免疫応答を増強させる漢方処方の有用性を検証し、感染制御戦略へ新たな選択肢を提供することを目的としています。

研究概要

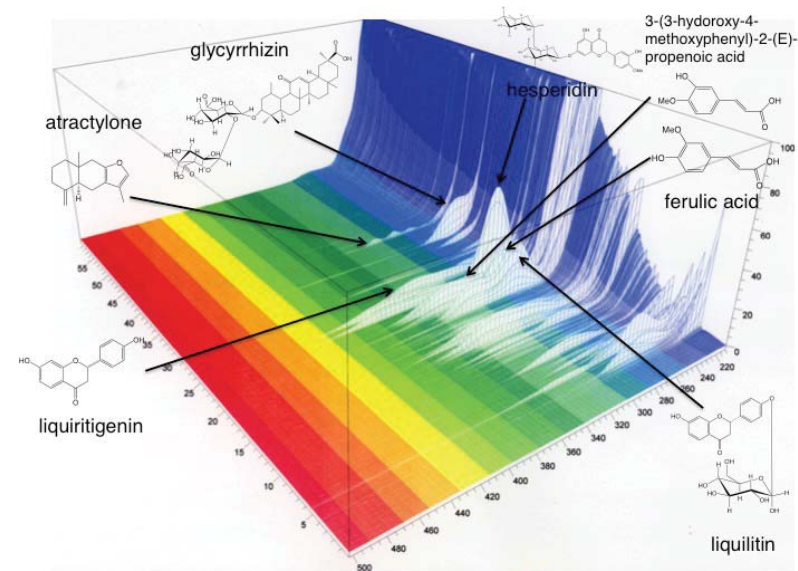
本研究は細菌感染症において、急性期の漢方薬内服が免疫系調節を介して生体防御機構の賦活化に寄与することを検証します。具体的には調合した漢方処方の煎剤を用いて、細菌性肺炎や敗血症といった感染モデルマウスでの生体反応を調べ、薬効を解析する実験を行っています。また、多くの成分を含有する漢方製剤の化学的な解析も併せて行い、鍵となる有効成分の同定や効果的な投与方法などを開発しています。

期待される成果

現在のところ漢方薬の集中治療領域への使用に関する研究は少なく、特に漢方薬の急性期重症感染症に対する効果を検討した研究はほぼ皆無です。漢方製剤の細菌感染への有用性が示すことができれば、細菌性肺炎のリスクが高い人工呼吸管理中の気道感染制御戦略や死亡率の高い敗血症に対する新たな治療戦略となる可能性が高く、その臨床的意義は大きなものになります。



↑漢方薬の調整の様子



↑漢方製剤の成分分析の一例
3次元高速液体クロマトグラフィーによる含有成分のプロファイル